

メイ政権の「メーデー」

発表日：2017年11月9日(木)

～相次ぐ閣僚辞任で政権崩壊が不安視～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

◇ 過去1週間余りに閣僚2人が辞任するなど、メイ政権の求心力低下が続いている。今後、離脱精算金、離脱関連法案、来年度予算案などの議会審議の過程で、さらなる求心力低下を招く恐れがある。また、万が一、セクハラ問題やパラダイス文書関連で保守党議員が議員辞職を迫られる事態に発展した場合、議会の過半数を確保するのが難しくなる。首相降ろしの再燃や再選挙となれば、その間の離脱協議の中断は避けられず、ただでさえ停滞する協議の行方をさらに不透明にしかねない。

英国では10月初旬の保守党党大会前後の首相退陣を求める動きを封印したのも束の間、メイ政権の弱体化に歯止めが掛からない。首相の側近であるファロン国防相がセクハラ問題で1日に辞任、ピンチャー院内幹事も同じくセクハラ問題で5日に辞任したのに続き、私的な休暇中に政府に無断でイスラエル政府関係者と会談をしたパテル国際開発相が8日に辞任した。政権ナンバー2で首相の盟友であるグリーン筆頭国務相もセクハラ問題や不適切行為に関する疑惑の渦中にあり、イランで拘束されている英国人女性について不適切な発言をしたジョンソン外相にも野党勢などから辞任を求める声が出ている。こうした国内政治情勢の不安定化は、重要な局面にあるEU離脱協議にも影を落としかねない。

EU離脱協議の中間レビューの場として注目された10月中旬の欧州首脳会議では、離脱精算金やEU市民の取り扱いなど第1段階の離脱協議に十分な進展が見られないと判断され、英国が求める第2段階の協議（移行措置や離脱後のEU関係）の開始は見送られた。それでも、メイ首相が9月のフィレンツェ演説で、約束済みのEU予算を支払う意向を示唆したことが概ね好意的に受け止められ、12月14・15日の欧州首脳会議に向けて協議を加速させる気運も一部のEU関係者から聞かれるようになった。だが、9日に再開された英国とEUの交渉担当者による第6回協議では、英国側が離脱制裁金の具体的な金額を提示できる段階にないことから、協議に目立った進展は期待できない。年内に第1段階の協議が決着しない場合、来年秋が事実上の協議期限とされる第2段階の協議の行方に不安が広がる恐れがある。

EU側はフィレンツェ演説でメイ首相が約束した以上の離脱精算金の上積み求めているが、首相が年内決着を目指し、離脱精算金の負担増を議会や国民に理解を求めるのであれば、政権の弱体化がさらに進む可能性がある。14日にはEU離脱時にEU法を英国法に切り替える法案が委員会で審議入りするほか、22日には来年度予算案の発表が予定されており、離脱精算金以外にも難しい議会運営が待ち構えている。

これまでのところ、メイ首相に代わる首相候補（首相のなり手）がいないことや、首相交代の過程で総選挙に発展すれば労働党に政権を奪われる恐れがあること、首相交代や再選挙により離脱協議がさらに遅れることへの不安などから、首相降ろしの動きは本格化していない。ただ、このまま政権の求心力が低下すれば、いつ大きな政局に発展するとも限らない。

議院内閣制の英国では、最大与党の党首が首相に選出されるのが一般的だ。メイ首相が退任する場合の後継首相は保守党の党首選を通じて選ばれる。その保守党の党首選は、①15%以上の保守党の下院議員（現在の議席では47名）が党首不信任の署名を非閣僚議員で構成される1922年委員会に提出するか、②党首自らが退任の意向を表明した場合に行われる。党首選出は、議員投票で2名まで候補を絞り込んだ後、党員投票で最終的な勝者を選ぶ。メイ首相が保守党党首に選ばれた際は、議員投票で2名に絞り込まれた段階で対立候補が辞退したため、比較的早期に決着がついた。だが、党員投票まで行なえば、後継党首の選出には2ヶ月程度を要することになる。その間の離脱協議の中断は、ただでさえ停滞する協議の行方をさらに不透明にする。

今年6月の総選挙で保守党は議会の過半数の議席を失い、北アイルランドの地域政党・民族統一党（DUP）の閣外協力により議会運営を行なっている。両党の合計議席は325と下院の過半数を辛うじて確保している状況で、野党の協力が得られない限り、1議席の造反も許されない。仮にセクハラ問題やパラダイス文書（英海外領土を拠点とする法律事務所から流出した租税回避などを巡る電子文書）関連の脱法行為で議員辞職を余儀なくされる保守党議員が現れ、補欠選挙で保守党が議席を失えば、議会の過半数の確保が難しくなる。2011年に施行された議会任期固定法の下でも、下院で内閣不信任が可決され、14日以内に別の内閣が信任されない場合、5年の議会任期が満了する前に議会が解散される。労働党の政権奪取により穏健な離脱に傾くことも期待されるが、労働党内も保守党同様に一枚岩ではなく、離脱協議の中断による時間切れリスクがまずは不安視されることになろう。

以上